

令和7年度第2回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和7年7月29日（火）

【大淵（保健医療課課長）】      ちょっと早いですけれども、始めさせていただきます。

皆さん、こんにちは。保健医療課の大淵でございます。よろしくお願いいたします。

ただいまから令和7年度第2回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催いたします。

委員の皆様には、お忙しい中、御出席をいただきまして、ありがとうございます。本日は、伊佐地委員と玉井委員が所用のため欠席されておりますので、御報告いたします。

この会に先立ちまして、両委員に御意見等をお伺いしたんですけれども、特に御意見なしということで伺っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、着席にて失礼いたします。

それでは、本日お手元にお配りしました資料といたしまして、1つ目、令和7年度第2回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会次第、それから、参考資料の6、財務諸表の承認について、それから、令和6事業年度に係る業務実績報告書に関する評価に対する意見（小項目評価）の案、これがA3判の大きいやつです。これは、先日評価いただいたコメントの部分のみ抜粋しております。それから、地方独立行政法人桑名市総合医療センターの令和6事業年度に係る業務実績に関する評価に対する意見（案）、そして、席次表となっております。

また、前回から引き続き使用させていただく資料につきましては、A3判の業務実績報告書、全体版のやつです。それから、A4判の令和6年度財務諸表等、それから、資料1の損益計算書における前年度との比較でございます。資料のほうは不足はございませんね。よろしいですね。

それでは、本日の議事進行につきまして御説明いたします。

前回、令和6事業年度の業務実績報告書の31ページ、大項目第3の評価項目まで議論をいただきました。本日は、大項目第4、32ページからになりますが、予算、収支計画及び資金計画から、大項目の第9までを御報告させていただきます。それと、令和6年度財務諸表等について、委員の皆様の御意見をいただいた後、実績評価に対していただいた御意見をまとめました評価に対する意見（案）について御確認をいただきたいと思います。お

ります。

それでは、ここから、豊田委員長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 今日、は、財務諸表等、お金の話がメインということで、お金に関してお詳しいお二人の委員に出席してもらっております。医者は欠席ということでございますが、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは、業務実績報告書の32ページ、先ほどの32ページ、大項目の第4、予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画で、これは財務諸表に対する意見聴取の際に説明してもらうことといたしまして、大項目の第5、短期借入金の限度額から、第9の桑名市地方独立行政法人法施行細則第6条で定める事項までにつきまして、ここは評価項目ではないということなんですけれども、事務局から報告をしていただくということになります。

では、事務局のほう、報告をお願いいたします。

【大淵（保健医療課課長）】 それでは、令和6事業年度に係る業務実績報告書の32ページから御説明申し上げます。

先ほども委員長おっしゃいましたが、大項目の第4については、次の財務諸表等にて御説明いたします。

次の大項目5から参ります。

短期借入金の限度額につきましては、限度額18億円で、令和6事業年度において借入残高はございません。

次の大項目第6、出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画及び、次の大項目第7、出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画についてですけれども、これも該当なしとなっております。

次の33ページをお願いいたします。

大項目の第8、剰余金の使途につきましては、令和6年度決算においては剰余金は生じておりません。

次に、大項目の第9、桑名市地方独立行政法人法施行細則第6条で定める事項について、順次御説明いたします。

まず、中項目の1、地域の医療水準向上への貢献については、他病院の臨床研修医、看

護学生及び薬学生等の受入れを積極的に行い、地域の医療従事者の育成に取り組みました。また、緩和ケア研修会など、地域の医師及び医療従事者を対象とした研修会を開催いたしました。

次に、中項目の２、医療機器の整備に関する計画について、医療機器選定委員会により費用対効果、地域住民の医療需要及び医療技術の進展等から総合的に判断した医療機器の購入を行いました。

３４ページをお願いいたします。

中項目の３、積立金の処分に関する計画につきましては、令和６年度繰越積立金は生じておりません。

次の中項目４、法人が負担する債務の償還に関する事項につきましては、法人が桑名市に対して負担する債務の元金償還は計画どおり実施しております。

次の３５ページ以降は、用語の解説や指標の計算式となっておりますので、説明は省略させていただきます。

以上、令和６事業年度の業務実績に関する説明でございました。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 報告ということですね。今までの先ほどの御報告につきまして、委員の皆様方から何か御質問、コメントなどはございませんでしょうか。

【永藤委員】 短期借入金限度額の残高はゼロということですかね。途中で借入金があったりとか、そういうこともなく、ゼロと。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうですね、今回は借りませんでした。

【永藤委員】 それは、資金繰りとかは特に問題なく？

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうですね。１８億にしているんですけど、１８億も必要ないというふうに。私、令和元年に行ったときに１３億あったんです。１０年かけて返していこうという計画を立てたんですけど、思いのほか業績もよくなったものですから、この年度で５億まとめて返して、初めてゼロになったということで。今後も、今年度も今のところ借りる必要はないんじゃないかということを思っていて、電子カルテ、変えましたので、７億、９月に必要になってくるんですけど、市のほうで起債、先に前倒しで借りてもらいましたので、特に短期借入金は必要なしと考えています。

【豊田委員長】 ほかに御質問、コメントございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、続きまして、令和６年度財務諸表等について、市長が承認するに当たり、事

前に事務局で確認した事項について報告をお願いいたします。

【大淵（保健医療課課長）】 それでは、財務諸表の承認について、参考資料の6になります。参考資料6を御覧ください。

総合医療センターが作成する財務諸表等につきましては、市民及びその他の利害関係者の判断を誤らせることのないように、財政状態及び運営状況を適切に示す必要があります。そして、地方独立行政法人法において、地方独立行政法人は、毎事業年度財務諸表を作成し、当該事業年度の終了後、三月以内に市長に提出し、その承認を受けなければならないとなっております。また、桑名市総合医療センター評価委員会条例におきまして、評価委員会の所掌事務として、財務諸表の承認に関することに関して意見を述べることを定めております。

そこで、これに先立ちまして、当方、事務局におきまして、合规性の遵守と表示内容の適正性の観点から、提出された財務諸表について、次の確認を行いました。

合规性の遵守につきましては、1つ目、財務諸表は6月末日までの提出期限内に提出されているか。2つ目、財務諸表として必要な書類は全て提出されているか。3つ目、監事の監査報告書は適正意見表示であり、財務諸表の承認に当たり、考慮すべき特段の意見はなかったかの3点。それから、表示内容の適正性につきましては、1つ目、提出された財務諸表は、表示科目など記載すべき項目について明らかな遺漏はないか。2つ目、合計等の計数は整合性が取れているか。3つ目、書類相互の数値は整合性が取れているか。以上の全部で6点、確認を行いました結果、齟齬はありませんでした。

総合医療センターの財務諸表につきましては、特に問題はありませんでしたことを報告いたします。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 医療センターから提出された財務諸表等につきまして、市のほうで確認をしていただいたところ、合规性の遵守並びに表示内容の適正性につきまして、適切に処理がなされていたという報告でございます。

それでは、続きまして、財務諸表等についての説明を事務局からお願いいたします。

【大淵（保健医療課課長）】 それでは、令和6年度財務諸表等の主なものにつきまして御説明申し上げます。

財務諸表等につきまして、最初にお断りをさせていただきますが、金額につきましては、財務諸表、全部円単位で記載されておりますけれども、説明では勝手ながら100万円単位にて御説明させていただきますので、どうぞ御了承いただきたいと思います。

それでは、目次をめくっていただきまして、まず、1 ページ目の貸借対照表、資産の部でございます。資産の合計につきましては、右下にありますように、1 6 4 億 3 0 0 万円となっております。内訳といたしましては、固定資産が 1 2 9 億 7, 4 0 0 万円、それから、流動資産が 3 4 億 2, 8 0 0 万円でございます。固定資産のうち、有形固定資産の内訳といたしましては、土地が 1 5 億 2, 5 0 0 万円、建物が 1 0 7 億 2, 1 0 0 万円、それから、器械備品が 6 億 5 0 0 万円となっております。

次に、無形固定資産でございますが、ソフトウェアほかで 7 0 0 万となっております。

次に、投資その他の資産では 2, 8 0 0 万円となっております。なお、今期の固定資産の増減につきましては、1 2 ページに詳細を記載しております。

続きまして、流動資産でございますが、主な内訳として、現金及び預金が 1 1 億 1, 9 0 0 万円、医業未収金は貸倒引当金分を差し引きし、2 1 億 3, 8 0 0 万円となっております。なお、医薬品等の棚卸資産につきましては、1 3 ページに明細を記載しております。

続きまして、2 ページの負債の部にいきます。

負債合計は 1 6 4 億 3 0 0 万円、そのうち、固定負債が 1 3 2 億 7 0 0 万円、流動負債は 2 6 億 6, 2 0 0 万円となっております。固定負債の主なものとしては、資産見返負債が 7, 4 0 0 万円、長期借入金では、1 年を超える未償還残高として 1 1 0 億 7, 7 0 0 万円、退職給付引当金 1 9 億 7, 3 0 0 万円、長期未払金として 8, 2 0 0 万となっております。なお、長期借入金の詳細は、1 4 ページ、1 5 ページに明細を記載しております。

次に、流動負債の主なものといたしまして、1 年以内に返済予定の長期借入金 7 億 4, 8 0 0 万円、それから、未払金 1 2 億 6, 3 0 0 万円、賞与引当金 4 億 9, 8 0 0 万円ほかとなっております。

次に、純資産の部でございますが、資本金は 5 2 億 5, 6 0 0 万円、資本剰余金は 2 9 億 7, 3 0 0 万円、繰越欠損金は 7 6 億 9, 7 0 0 万円となっており、その内訳は、前期繰越欠損金 7 5 億 7, 0 0 0 万と当期総損失 1 億 2, 7 0 0 万円となっております。

以上、純資産合計が 5 億 3, 3 0 0 万円、負債純資産合計は 1 6 4 億 3 0 0 万でございます。なお、純資産の内訳については、4 ページの純資産変動計算書に記載があります。

続きまして、3 ページ、損益計算書になります。

まず、営業収益が 1 4 5 億 7, 9 0 0 万円で、主な内訳といたしまして、医業収益 1 3 4 億 4, 3 0 0 万円、補助金等の収益 4, 4 0 0 万円などとなっております。

続きまして、営業費用が 1 4 8 億 4, 9 0 0 万円で、内訳といたしまして、医業費用が

145億4,200万円、一般管理費が3億700万円となっております。営業収益から営業費用を差し引きいたしました営業損失が2億7,000万円でございます。なお、医業費用及び一般管理費の詳細は、21ページ、22ページに明細を記載しております。

続いて、営業外収益は2億5,300万円、営業外費用は1億1,000万円となっております。さきの営業損失に営業外収益と営業外費用を含めた経常損失は1億2,700万円となっており、そこに臨時損失を加えました1億2,700万円が当期純損失でございます。また、現金の支出を伴わない減価償却費10億1,700万円と1,500万円を除いた減価償却前利益は9億2,000万円の黒字となっております。なお、前年度からは1億700万円減少しております。

次に、5ページをお願いいたします。

キャッシュ・フロー計算書でございます。これは資金収支状況を示したもので、令和5年度の資金期末残高は11億1,900万円となっております。

6ページになります。

損失の処理に関する書類でございます。この書類につきましては、先ほどの損益計算書、3ページの損益計算書において生じた当期総損失1億2,700万円を前期繰越欠損金の75億7,000万円に加えた76億9,700万円を令和7年度に繰り越す書類となっております。

続きまして、7ページをお願いいたします。

行政コスト計算書でございます。令和6年度の行政コストといたしましては、149億6,000万円を算定しております。

次の8ページから11ページは、注意事項となっております。

続いて、12から23ページにつきましては、財務諸表で御説明申し上げました数値等の附属明細書となっておりますので、説明は省略させていただきます。

次に、令和6年度の決算報告書をお願いいたします。

決算報告書は、年度計画として公表している予算の執行状況を報告するものになります。決算報告書は現金主義にて作成されており、現金を伴わない収益や現金支出を伴わない減価償却費などは含まれておりませんので、発生主義で作成した先ほどの損益計算書とは数字が異なります。

表の一番下、令和6年度の単年度資金収支は3億3,100万円の赤字となっております。当初予算額の1億9,800万円からは、給与費や材料費等の増加により3億3,100

0万円のマイナスとなっております。

事業報告書につきましては、地方独立行政法人の事業報告に関するガイドラインに沿っており、内容については、令和6事業年度に係る業務実績報告書と重複いたしますので、説明を省略させていただきます。

次に、監査報告書をお願いいたします。

地方独立行政法人法第34条第2項の規定により、法人が財務諸表を設立団体の長に提出するときは、監事の意見を付することが義務づけられております。監査の結果については、報告書のとおり、法人の財政状況、運営状況を適切に表示していること、また、法令に適合していると認められるとの意見が付されております。

以上が令和6年度の財務諸表についての御説明でございます。

続いて、決算の状況について、資料1の損益計算書における前年度との比較を御覧いただきたいと思います。

まず、営業収益では、医業収益がコロナウイルス感染症関連補助金の減により、補助金等収益が前年度より1億9,200万減少したものの、入院収益が前年度から3億3,300万、外来収益は前年度から2億3,800万円それぞれ増加し、合わせて5億9,000万、前年度より増加となったこと及び運営費負担金の増により、営業収益全体では前年度から5億8,900万円余増加し、145億7,900万円余となりました。

次に、営業費用は148億4,900万円でした。前年度より医業費用の給与費で3億1,900万円、材料費で3億100万円余の増加となっており、前年度と比べて5億2,900万円の増加となっております。

営業収益から営業費用を差し引きいたしました営業損失は2億7,000万となっており、また、営業損失に営業外収益と営業外費用を含めました経常損失は1億2,700万円となっております。

最後に、表の一番下にあります当期の純損失は1億2,700万円となり、前年度は2億1,600万円の損失でありましたことから、前年度よりも8,800万改善となっております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】      ありがとうございました。

それでは、ただいま御説明のありました法人の財務諸表等につきまして、委員の皆さんに御質問、御意見、あるいはコメントをお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

森下委員、お願いします。

【森下委員】 資料1を見せていただいて、前年度と比較しても、医業収益については約5億9,000万、それから、医業費用のほうは5億2,000万ということで、収益に伴って必要な経費も出てきたのかなという気がいたしますけれども、ただ、1点、将来的にどうするのかなという感覚でございますけれども、今回、減価償却が前年に比べて2億ほど下がっております。この分が前年度との純損益、純利益のところへ反映していくと8,000万にしか、圧縮されているという部分がございますので、償却資産の額が減ってきた部分については、できればこの分、うまく損失圧縮のほうへつなげていただくように頑張っていたきたいなという気がいたしております。数的にはいいんですけども、その辺だけ。あとは本当に全部頑張っていたいているなという感じでございます。

【豊田委員長】 先ほどの森下委員のコメントにつきまして、何か御意見ございますか。ないでしょうか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ありがとうございます。

令和6年度の事業収益につきましては、基本、増収減益というふうになっております。前年度よりも最終損益のところが良いのは、実は昨年度、その前の年から比べると3億ほど運営費負担金を増やしていただいているんですね。それが変わらなければ、昨年度よりも収益は悪くなるということになります。医業収益が上がったにもかかわらず、それをコストがのみ込めない状況になっていまして、これは全国的にどこの病院も同じような状況になっております。県内の公立病院を見ましても、前年度より良くなった病院というのは非常に少なくなっていますので、ここが本当に正念場だというふうに思っておりますし、森下委員言われましたように、減価償却はこれから建物にかかるものが減っていきますので、ただ、来年度は、今年度、カルテを入れ替えましたので、また1億ぐらい乗っかってきますので、また減価償却費は少し上ってくるんだろうと思っているんですけども、なかなか今年度は診療報酬が改定されませんでしたので、来年度、どういう改正がされるのか分かりませんが、今年度もなかなか医業収益がコストをのみ込めないというのは続くと思いますので、今年度も頑張っていけないと同じような数字になるんじゃないかと。

また、運営費負担金も前年度から少し減らされておりますので、その辺は病院として頑張っていかなければならないというふうに考えています。

【森下委員】 そちら辺の運営費補助の関係が、多分、今のところルール化できていないのかな、まだ。市との間で。



【中村（桑名市総合医療センター理事）】 実は、平成24年ぐらいまで遡るんですけども、前の市長の水谷市長の最終年度のときに、当時の桑名市民病院、あまりにも業績が悪かったものですから、そんなもの交付税分しか出すなどとなった副市長がいるとかいないとかという話で。

【森下委員】 覚えております。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そのときに減らされてからずっと交付税ベースでやってきたんですけれども、うち、昨年、竹田先生が辞表を持って市長のところへ行っていて、何とか3億増やしていただいて、今、繰り出し基準の88%まで頂いています。これ、100%もらいますと1億5,000万ぐらいありますので、今年度、最終損益が黒字になるところまで来ているんですけれども、なかなか市の財政状況との見合いのところもありますので、病院としましては、本来100%繰り出し基準を頂けるといいなというふうに思っているんですが、独法になりますと、どちらかというと運営費負担金を削られる傾向にありますので、また市長のほうとしっかり協議をさせていただきたいなというふうに思っております。

【豊田委員長】 繰り出し基準、満額は頂いていないということなんですね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 頂いていないです。委員長からもしっかり市長に言っていただくと上がるかなと。

【豊田委員長】 分かりました。

【森下委員】 人員の確保的な要素も含めて、人件費の増額がこれから多分厳しい面が出てくる。人を確保するために防衛的賃上げというのはどうしてもやらざるを得ない状況で、各産業とも全部出てきているんです。だから、そこらあたりのところが、要はコストアップ交渉をやる段階でも、人件費と物件費についてはほぼほぼ認めてもらっているという、親会社のほう。普通、経済原理でいけばそうなっているので、例えばこの場合は、人件費が上がってきた部分について、どう設置者に対して議論をするかというところが大きなテーマだと思うので、そのところは理事長以下、頑張っていていただかないとかなきゃいけない。

どちらかという、市の情勢がどうなんだということも大きく影響してくるので、あんまり簡単には言えないと思うんですけど、そこら辺のところは、収益が伸びてもその分がカバーできていないんだということ、やっぱり、そこをカバーするのが市からの負担金という感じで考えているのかなという気がするものですから、そこは逆に強く要求を

していただいてもどうかと思いますので。

せっかく頑張っていたいでいるので、数字に反映していないのはちょっともったいない。

【豊田委員長】 ほかに御意見、御質問などございませんでしょうか。

永藤委員、どうぞ。

【永藤委員】 先ほどの話から、医業収益等、指標を前回見ていてもかなりよくなっていますので、そこは引き続きお願いしたいところなんですけれども、先ほどからお話があるように、収益に対して費用がそれ以上にかかっているというところなんですけれども、給与費や材料費、減価償却費は、ある意味ほとんど固定費ですので難しいんですけれども、固定費以外で変動費で何か削減、収益以上に費用を削減できるような項目はほかにはないという理解なのか。どこかの費用に対してちょっと頑張っているみたいなお話が聞ければなと思います。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ありがとうございます。

実は、桑名市総合医療センターは非公務員型を取っておりますので、公務員型給与を取っていませんので、まず、そこでどちらかというと人件費が抑えられるところがあります。県内の公立病院、皆さん今回一番困ってみえたのが人勧がかなり大きかったものですから、それがかなり収益を圧迫したと。私ども、人勧を取っていませんので、もちろん県内の公立病院と違い地域手当もありませんので、そこで実は人件費を抑えられながら、診療報酬ではベースアップ評価料がつけましたので、それはもうほとんど、それを超えて職員に支給しているんですけれども、どうしてもそれで人件費が押し上がってくるんですが、これ幸い、最初のときに非公務員型で市の給与体系を維持しなかったものですから、まだ抑えられていると。

あとは、やっぱり材料費なんかはSPDを採用していますので、SPDのほうでしっかりベンチマークしていただいて抑えてもらっておるので、他の病院と比べるとどちらかというと低いほうにはなっていると思います。ただ、公的病院と言われる厚生連さんとかと比べると、どうしても人件費率は高いところにありますので、やっぱりもう少し、人を減らすということはなかなか病院はしにくいですから、収益をもっと上げていく努力を院長にはしていただけるんだろうというふうに思っています。

【豊田委員長】 非常に頑張っていたいでいて、ただ、数字的には赤字というふうになるわけですけど、これをもちろん市長さんにも御理解いただく必要があるわけですが、

議員の皆さん、あるいは市民の皆さんに、数字だけ見たら赤字じゃないかと言われちゃうわけですけど、実はこうなんですよと御理解をいただけるような説明とか、工夫はないものかなと思ったりするんですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 私らがよく使うのは、減価償却前で見えてくれとは言うんですけど、減価償却は支出を伴わないので。なかなか、でも、会計が分かる方からいけば、赤字は赤字じゃないかということなので、もう10年ぐらいすると、減価償却、もう少し下がってきますので、その頃には多分もう少し数字はよくなってくるんだろうと思っているんですけども、今はもう少し頑張って収益を伸ばしながら、地域からの信頼をいただかないと医療は成り立ちませんので、そこに本当に取り組んでいく必要があるんだろうというふうに思っています。

【豊田委員長】 地域からの信頼とか、そういうことについては、本当にこの前の委員会でもしっかりと、委員の皆さん、信頼されているというような御評価をいただいております。そういう面では、本当に桑名市医療センターはよく頑張っておられると、こう思われるわけですが、その他、この数字だけを市民が見ると一体どう思うのかなということなんですよ。

【森下委員】 だから、経営の数字だけ言うと、累積赤字も七十何億で大きな数字になっているけれども、これは建物が新しいので、今の段階として致し方ないというところですけども、今、委員長も言われたように、医療センターそのものが市民の信頼を得ているというところ、救急にしても何にしてもね。よそで受けられないものを受けてもらっている。今まで県外へ行っていたものを桑名で受け入れているという、そういったところの変化の度合いがまだ市民のほうにはなかなか周知されていないかもわからない。どこまでいっても、やっぱりお隣の弥富やらの病院さんの救急みたいところでまだ言われる方がお見えになるので、いや、そうじゃないんだと。いや、もう完全に桑名市総合医療センターが受けているんだよという、一度広報か何かも使って、うまくそのあたりも市民にPRしていただくとか、そんなのが本当に大事なんだろうなと思いますよ。本当にやっているんだということですね。だって、医師会さんだってすごい高い評価を出してくれましたね。

【豊田委員長】 そうそうそう、医師会が高い評価をしておりますので。

【山田（総合医療センター病院長）】 せっかく委員の先生からそういう御発言をいただきましたので、過去と比べていかにうちが救急をしっかり受けているかとか、そのあたりを広報を通じて市民の皆様にアピールしていくというのはまた考えさせていただきたい

と思います、ぜひとも。

【森下委員】 それをもって市長に、ここの負担金の部分、ここを納得してもらわないと。

【白石（総合医療センター理事長）】 特に例えば、うちはがん診療準拠点病院なんですけれども、がん診療に関しましては、拠点病院のときに出す数字として、いわゆる地区医療圏の中でどのような人が他の医療圏で一定診療を受けているか。だから、出の部分と入り部分が一応数字として出ておりますので、そのあたりもまた検討して、分かりやすい数字として出せるようでしたら、それをぜひ公表していきたいというふうに思っております。

【森下委員】 すみません、財務と関係ないところで申し訳ない。

【豊田委員長】 繰り出し基準、満額出してもらっていないというのは、数字上、赤字になっているということに対する言い訳というか、それになるのかならないのか、その辺はどうなのでしょう。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 実際、数字上だけで言えば、繰り出し基準が12億4,800万ほどあります。今もらっているものが11億ですから、1億4,800万差がありますので、1億2,700万の赤字であれば、それを満額もらえば黒字になりますけれども、ただ、独法になると、どうしてもやっぱり、先ほども言いましたけど、運営費負担金、自治体側はどうしても削りたいというところがありますし、もちろん基準外繰り出しというのは桑名市民病院時代は頂いていたんですけど、それももらえなくなりますので、さらに財政の独立性は高まってくるんだろうと思うんですけど、それをちょっと言い訳にすると、なかなか市のほうもあんまりいい顔をしないと思うので、もう少し努力をなさなきゃいけないというふうに私どもは思っています。

ただ、今年は本当に、損益計算書の次のキャッシュ・フローを見ていただきますと、期首期末で3億4,000万ほどマイナスになっていますのが、これ、5億、短期借入金を全部返しましたので、ここで実はキャッシュ・フローの調整はつくんですけども、一気に利息もつきますので、一気に返したと。これは政策的に返したというところがありますので、ぜひ来年度のキャッシュ・フローを一回見ていただけるといいんじゃないかというふうに思います。よろしくお願いします。

【豊田委員長】 ほか、御質問、御意見等ございませんでしょうか。

【森下委員】 1点だけ質問させてください。

医業外収益のその他収益で九千どれだけ上がっていたのがあります。これ、内容的にはどんなもの、何なんでしょう。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 昨年度、実は大きな医療事故がありまして、その賠償金一旦病院に入ってきていますので、保険で。それですね、大きなものは、7,000万ぐらいの損害賠償をしましたので。

【森下委員】 えらいその他収益が多いなと思って、何が入っているのかなと。一生懸命頑張って広告を取っておるのかなと。桑名市に市の権料が入ってくる、どこの会社やろうなというので広告をべたっと貼っているの、あまりにねとは思いますが、そこら辺もまた頑張ってください。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そういうのがあるといいですね。

【森下委員】 取れるところとか。場合によっては、駐車料金も安いので、駐車料金を少し上げるとか、小さなところから1つずつやっていくのも手かなとは思いますが。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 駐車料金は実は、日本パーキングさんに徴収した売上金を全部払っているの、そこから固定収益分を頂いていますので、もう少し稼いだらどうだとは言っているんですけど、花火のときなんかはオープンにしてもらったらいいいと言っているんですけど、なかなか日本パーキングさんはうんと言ってくださらないので。もうちょっと開けてもらえれば、使ってもらえると思うんですけど、ちょっと反応が悪いんですね。

【豊田委員長】 それでは、委員の皆様方からはいろいろと御意見がありました。ただし、財務諸表等に、そのものにつきましては、事務局より報告がありましたように、合规性の遵守及び表示内容の適正性という2つの観点からは承認することが妥当であるとさせていただきますが、よろしいでしょうか。

そして、委員の皆様方の御意見につきましては、付記して市長に伝えたいというふうに思います。

ということで、事務局のほうでまとめていただいてよろしいでしょうか。

【大淵（保健医療課課長）】 先ほどいただいた御意見をまとめさせていただきます、意見書とさせていただきますと思います。

【豊田委員長】 最終的な文面につきましては、委員長一任ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、令和6年度の業務実績に関する評価に対する意見（案）の確認に入ります。

まず、前回の評価委員会で法人の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目につきまして、コメントを確認したいと思います。前回、自己評価と委員会の評価と異なっておるのが一部ありまして。

それでは、コメントを事務局のほうで案を作っていただきました。じゃ、事務局から説明をお願いします。

【大淵（保健医療課課長）】 それでは、本日お配りいたしましたA3判の令和6事業年度に係る業務実績報告書に関する評価に対する意見（小項目評価）の案、これを御覧いただきたいと思います。

3項目ございましたので、順次説明させていただきます。

資料の18ページと表示させていただいております大項目の第1、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置の中項目の4、患者サービスの一層の向上の小項目3、職員の接遇の向上につきましては、法人の自己評価3に対しまして、評価委員の評価が4でございました。コメントといたしましては、外来患者満足度は令和5年度より僅かに低下しているが、入院満足度のほうが大幅に増加し、中期計画を超えており、御意見投書箱の感謝の割合の増加と苦情の割合の減少を考慮して、病院全体の接遇は向上したと評価できるためといたしました。

次、25ページと表示させていただいております大項目の第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置の中項目1、規律ある職場づくりにつきましては、法人の自己評価3に対しまして、評価委員会の評価が2でございました。コメントといたしまして、看護師における内服薬等の未投与が繰り返し行われたというアクシデントが発生したことによる評価としたとさせていただきます。

次、3つ目ですけれども、29ページと表示いたしております大項目の第3、財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置、中項目1、持続可能な経営基盤の確立につきましては、法人の自己評価4に対して、評価委員会の評価は3でございました。コメントとしまして、収入の確保及び支出の節減に努め、財務改善の努力をされていると評価できますが、令和6年度の実績値を鑑みた評価としたとさせていただきます。

以上、業務実績に関する評価につきまして、評価が分かれた項目については以上でございます。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】      ありがとうございます。

それでは、ただいまの事務局のコメントにつきまして、いかがでしょうか。こういうコメントでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

そうということで、委員会としてはこのコメントでやっていきたいということでございます。

それから、次に、令和6事業年度の業務実績に関する評価に対する意見（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。

【大淵（保健医療課課長）】 それでは、本日お配りいたしましたA4の地方独立行政法人桑名市総合医療センターの令和6事業年度に係る業務実績に関する評価に対する意見（案）につきまして、評価委員会で御議論いただきました評価に対する意見をまとめましたもので、評価委員会が市長に提出する書類となります。

まず、1ページ目を御覧ください。

年度評価の方法といたしましては、項目別評価と全体評価を行っており、項目別評価では、法人による自己評価を基に、自己評価の妥当性や年度計画の進捗状況について項目別の評価を行い、全体評価では項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について総合的な評価を行ったとしております。

次に、1の大項目評価につきまして、第1、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置につきまして、小項目評価の平均点は3.3となっており、第1回評価委員会の際に配付いたしました参考資料の2の地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価の基準で示すところのB評価、おおむね計画どおりに進んでいるが妥当としております。

評価委員会での主な意見や小項目評価の集計結果につきまして、1ページから2ページに記載いたしております。

次に、2ページの下半分、第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置につきましては、中項目評価の平均点が3.0点であり、こちらについても評価基準に照らし合わせまして、B評価、おおむね計画どおりに進んでいるが妥当としております。

次の3ページに、評価委員会での主な意見や集計結果を記載いたしております。

その次、3ページ目下半分の第3、財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置でございます。中項目評価の平均点が3.7でありましたことから、評価基準で示

すところのA評価、計画どおりに進んでいるが妥当といたしております。

続いて、4ページになります。

2の全体評価の1つ目、評価結果と判断理由でございますが、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置及び業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置についてはB評価、財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置についてはA評価であること、加えて、次の点を考慮いたしまして、全体としては中期計画の達成に向け、おおむね計画どおりに進んでいるといたしました。

全体評価に当たり考慮した事項につきましては、1つ目、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置におきましては、電子処方箋の運用やダヴィンチによる手術動画を三重大と共有した実績があり、前年度よりDXを推進していると考えられ、次年度以降の取組に期待が持てるなどを挙げております。

次に、2つ目、財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置では、経営努力をしているが、診療報酬は公定価格であり、人件費や物価高騰等のコスト上昇分を価格転嫁できない構造上の問題があるを挙げております。

続きまして、5ページになります。

評価に当たっての意見、指摘等では、業務実績報告書における法人評価について、判断理由を明確に分かりやすく明記していただきたい。職員の接遇研修が実施されていなかったのもので、次年度は実施していただきたいを挙げております。

以上になります。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】      ありがとうございます。

この意見（案）につきまして、何か御意見、御質問、あるいは御追加はございませんでしょうか。

でも、赤字なんだけど、財務のほうは計画を上回って実施しているというような評価になっていますよね、全体としては。ちょっと違和感を感じないでもないんですが、ただ、集計上の点数からいくとそうになっていると。

それで、一番最後に、4ページの一番下を書いてあった、経営努力をしているが、診療報酬は公定価格で、人件費や物価高騰等のコスト上昇分を価格転嫁できない構造上の問題があるということで、現場は非常に頑張っているんだけど、こういうことがあるので、数



字上、赤字になっていると。だから、やむを得ない面があるというような、そういう委員会のコメントになっていると、そういうことですね。

【森下委員】 そのとおりだと思います。

それと、今日出たようなところをもう少し、最後の3のところへ付け加えておいてもらったらいいのかなというふうに思いますね。具体的な内容としては、やはりこれまでの域外診療の部分が戻ってきているとか、いろんなそういうところがあるんだと。だから、そういうPRをしながら、もっと市民に市から出てくる負担金の正当性をちゃんとアピールするようにということ。

【豊田委員長】 だから、委員会としては、現場の経営努力は評価させていただいて、いい評価にあえてさせてもらっているということですよ。そういうような趣旨でこのようなことになっているということだというふうに理解をいたします。

永藤さん、それでよろしいでしょうかね。どうでしょう。

【永藤委員】 努力はされておりますが、あえて書くとするなら、赤字の縮小、あるいは黒字化にもう少し取り組んで。

【豊田委員長】 そうですね。赤字の解消、あるいは黒字化に努力をさらに続けていくということを書き加えておいたほうがいいですよ。やむを得ない面もあるんだけど、引き続き御努力いただきたい。そういう表現にさせていただくと。これ、僕が市長の前で読み上げる。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 もうちょっと出すと黒字になると言っておいてください。もうちょっと出すと黒字になると言うてもらおうと助かります。

【豊田委員長】 分かりました。言うておきます。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 おまえが言うなと言われる。

【森下委員】 負担金を満額くれたら、なっていますんやわと言っておいたらいい。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 僕のと、出していなかった。僕、財政課長のときに、これを言うてもらおうと困るんですけど。僕、財政課にいましたので、全然出していなかったんです。

【森下委員】 公的医療機関としての責任をちゃんと果たしているというのはやっぱりもっとPRしたほうがいいですよ、本当に。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そこが本当にどこまで言えるかというのは、今、院長と言っていたんですけど。

【森下委員】      そちら辺、よく検討いただいて、アピールするところはアピールしないと。

【豊田委員長】      先ほど出てきました、本当に公的医療機関として非常に立派に責任を果たしておられると評価委員は評価しているわけで、それをもっともっと市民にアピールしていただく。そういうこともここに書き入れていただいて。

【森下委員】      私はそう思いますよ。

【豊田委員長】      よろしいでしょうか、そういう方向性で。

【森下委員】      ここは委員長に一任させていただきます。

【豊田委員長】      あと、細かい文章の表現につきましては、委員長一任ということでお願いをしたいと思います。

これで一応、議事は以上ですかね。

それでは、そのほか、何かございますでしょうか。特にないですか。

では、ないようですので、これで本日の議事を終了させていただきます。

あとは事務局でお願いします。

【大淵（保健医療課課長）】      本日は、長時間にわたり御議論をいただきまして、また、貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。市長への令和6事業年度の業務実績に関する評価に対する意見と、令和6年度財務諸表に対する意見書の提出については、豊田委員長にお願いいたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和7年度第2回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

— 了 —